

自転車利用実態定点調査報告

平成26年10月

(一財)日本自転車普及協会

調査目的 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

調査日時 平成26年9月24日
[午前]9:00~10:00

調査場所 ・ 白金幼稚園前 (庭園美術館西交差点(首都高速目黒線直下)から 70m 程の上り坂)

概要 ・ 調査対象(車道線:目黒通り上り 4 車線及び歩道:幅員 3.1m
[一部歩道橋橋脚部分 1.5mあり])
調査対象外(反対側上り歩道)



	歩道		←	対象外
上り線車道	←		}	対象エリア
	←			
	←			
	←			
	歩道	↑		
		白金幼稚園		

自転車利用実態定点調査票

No.	走行空間				車種		雨天		危険運転行為							
	歩道歩行	車道歩行	車道中央	歩道	子乗せ	電動	雨	雪	両肩	片手運転	立ち漕ぎ	片手運転	立ち漕ぎ	片手運転	立ち漕ぎ	その他
1																
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																
16																
17																
18																
19																
20																
21																
22																
23																
24																
25																

調査日時：	平成 年 月 日 ()
天気：	()
調査時間：	() ~ ()

＜調査票＞

[コメント]

◎走行空間においては、左側車道走行率は、約 15%であり、また、車道中央走行率は、21%のため、依然、歩道を通行する自転車が多く、全体の 6 割程度を占めている。

◎危険運転行為は、肩に荷物(22 件)・ハンドルに荷物(7 件)・立ち漕ぎ(3 件)の順となっている。その他として(子供を前に抱え運転)がある。

【総合】

今回の調査は、現在、実施している自転車総合ビル前での自転車利用実態定点調査が目黒通り下り車線が対象のため、上り車線での実態を調査するため行ったものである。参考資料として、下り車線(直近の 9/22 の午前)と以下の項目で比較してみた。

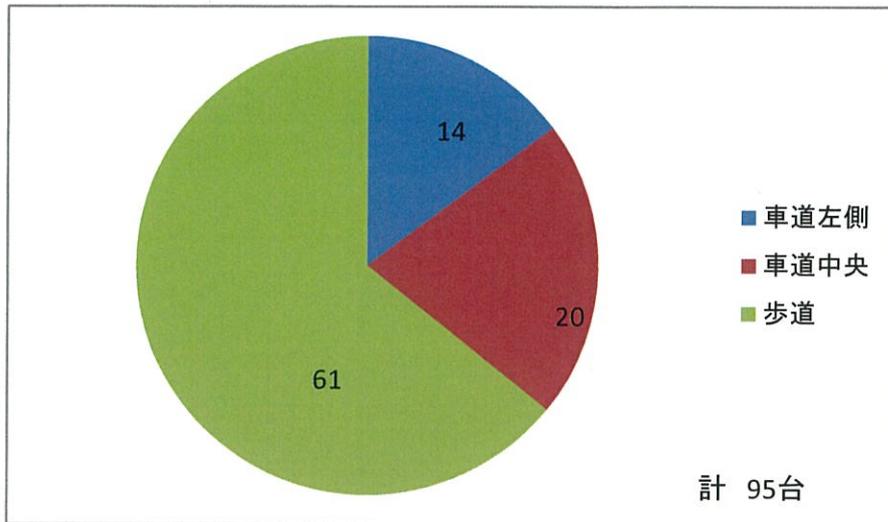
- ・左側車道走行率 上り地点(14.7%)に対し、下り地点(19.1%)と、5 ポイント下降
- ・子乗せ自転車 上り地点(11.6%)に対し、下り地点(14.7%)と、3 ポイント下降
- ・電動自転車 上り地点(21.1%)に対し、下り地点(39.7%)と約半分の水準
- ・危険運転行為 上り地点の [肩に荷物・ハンドルに荷物・立ち漕ぎ・過重積載] に対し、下り地点の [肩に荷物・片手運転・過重積載・立ち漕ぎ] と内容がほぼ共通している。

- ・その他の危険運転行為 母親が子供を抱きかかえ(バンド等で固定)での運転が発生した。子乗せ自転車が普及している現在、専用の座席を確保した方が、安全面では、最適と考慮される。

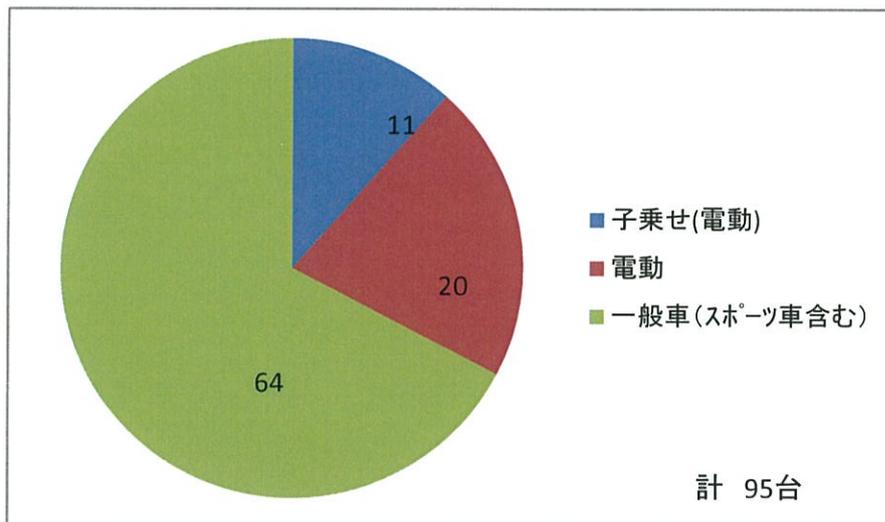
以上から勘案してみると、上り地点は、下り地点と比較して、左側車道走行率・子乗せ自転車の按分率が共に減少しており、電動自転車については、大幅な下落となっている。

本来、上り坂であるため、電動自転車の割合が増加すべきであるが、背景として車道中央走行者については、1 台も電動自転車を使用しておらず、結果として使用割合の低下を導いている。

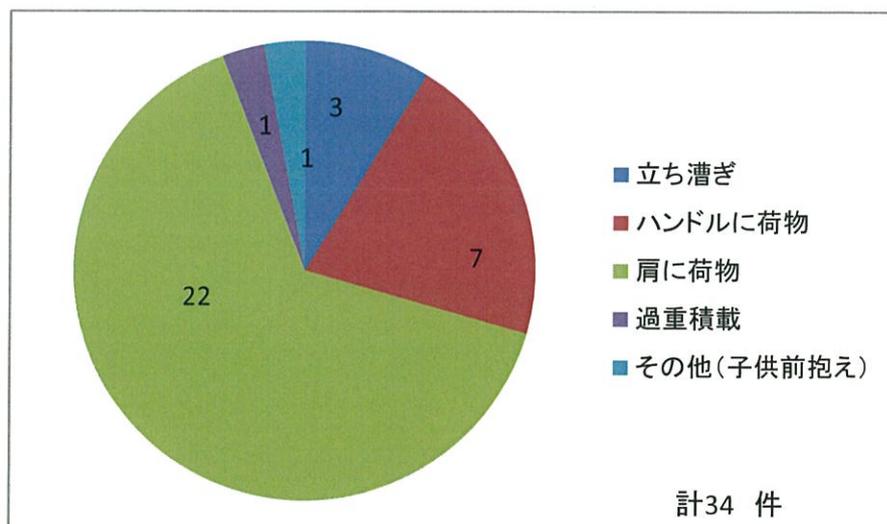
なお、今回の調査で、車道中央走行が多かった理由は、上り車線先の庭園美術館西交差点において、歩行者横断帯中央にて左折道路と直進道路が分断されており、直進する利用者は、同交差点のかなり手前から 道路中央を走行していたが、4 車線での中間(両隣が 2 車線)走行のため車両に挟まれてながらと、かなり危険な走行を強いられている感が窺えた。



走行空間



車種



危険運転行為

